# 「自分が描いたヒーロー像を忘れるな」

## ハリウッドで俳優として活躍する尾崎英二郎さん

## ～後輩にメッセージ～

▲学生たちに歩み寄って語る尾崎さん

ハリウッドを拠点に俳優として活躍する尾崎英二郎さん（平3経済）が12月22日、生田キャンパスで講演し、200人の後輩にメッセージを贈った（文学部と経済学部共催）。専大での講演は5年ぶり。

尾崎さんは映画『硫黄島からの手紙』『ラストサムライ』、スピルバーグ製作総指揮のドラマ『EXTANT（エクスタント）』や『HEROES／ヒーローズ』などの話題作に出演している。昨夏、初の著書『思いを現実にする力』を上梓した。

専大時代、米ネブラスカ大学リンカーン校に長期留学。卒業後、無名の存在からキャリアを積み上げ、言葉や文化など幾多の壁を突破してハリウッド入りした。その体験を、演壇に上がらず、聴講者側に歩み寄って学生に何度もマイクを差し出して語った。

また、普段目にすることができない映画の台本を学生に回しながら、日米の脚本の作り方の違いを話し、製作スタッフやキャストがいかに観客や視聴者を楽しませることに力を尽くしているかを解説した。

最後に、「あなたにとってのヒーローは」と問いかけ、学生たちにヒーロー像を思い思いに描かせた。「描いたヒーローの発想はあなたたちの財産になる。忘れないで」と、個性を持ち、「人とは違う」表現や歩み方をする大切さを説いた。

講演後「あす就職の面接がある。必勝法を教えて」「自分の考えを否定された時、自分を信じることができるか」など、多数の質問が寄せられた。尾崎さんはじっくりと受け止めて答えていた。

尾崎さんは、このほかにも専大で「留学OB会」など2つの講演をこなした。

▶受講者に語りかけるリム教授

## やさしい英語による経済学講座

## 「異なる観点で世界を見る方法」

### ――リム海外客員教授が講演

第155回国際交流特別講演会「やさしい英語による経済学講座」が11月8日から12月6日まで5回、生田キャンパス国際交流会館で開かれ、スティーブン・リム経済学部海外客員教授（ニュージーランドのワイカト大学経済学部教授）が「異なる観点で世界を見る方法　日常生活への経済学の応用」を総合テーマに講演、毎回多くの市民らが聴講した。

同講座は講演から質疑まですべて英語。11月22日は「なぜ女性は男性より稼ぎが少ないのか　それは文化的な理由か」がテーマ。リム教授が会場に質問を投げかけ、聴衆と一緒に考える双方向の講演が展開された。

当日は一般受講者と共に学生も参加。長島貴一さん（経済2）は「リム先生の国際経済学科の授業も受講している。授業でわからないところをさらに調べようと今日参加した」。佐々木悠さん（同）は「論理的でデータをもとに説明してくれる。英語も聴きとりやすい」。古川颯馬さん（同）は「リム先生は問いを投げかけてくれる。とても勉強になった」と好評だった。

## 市民は"知識武装"を

### 特定秘密保護法考えるシンポ

▶左から瀬畑、杉田、三木の各氏

特定秘密保護法は12月10日に施行されたが、前日の9日、NPO法人・情報公開クリアリングハウス（三木由希子理事長）主催のシンポジウム「国家権力と国家秘密と情報公開」（後援：日本ペンクラブ、自由人権協会）が神田キャンパスで開かれた。

三木理事長、法政大の杉田敦教授、長野短期大の瀬畑源助教が特定秘密保護法のあり方や問題点を指摘、市民が国家の秘密や秘密法について知識を深める必要性を訴えた。

特定秘密保護法は、特に秘匿が必要な安全保障に関する情報を「特定秘密」に指定、漏えいした公務員らに最高で10年の懲役刑を科すなどとしている。

シンポジウムは山田健太文学部教授の進行で行われ、三木氏は政府の秘密の枠組みを解説。特定秘密だけではないさまざまなランクの「秘密」が政府には存在するとし、官僚の恣意的な判断でランクの振り分けが行われる恐れがあると指摘。国民は「行政のどの過程で秘密ができたのか」「秘密の指定は正しいのか」を判断する必要があると語った。

（花岡あずみ・文3）

◀進行役の山田教授

▶息を合わせて大縄跳びに挑戦

## 体育祭に120人参加

第49回体育祭が12月6日、生田キャンパス総合体育館で12チーム120人が参加して行われた。

今年は大縄跳び（2回）とバスケットボールのフリースロー（3回）での得点を合計して順位を決める。各チーム一丸となって熱戦を繰り広げた結果、準硬式野球部で構成される「田村の愉快な仲間たち」チームが大縄跳びで202回跳ぶ圧倒的な強さを見せ、総合210点で優勝。総合140点の「わっしょい」チームが準優勝した。

体育祭実行委員長の谷口幹弥さん（経営3）は「昨年より小規模になったが、うまくまとまって男女ともに楽しめる体育祭になったと思う。実行委員一同、行き届かない部分もありましたが、次回に生かし、来年も楽しんでもらえる体育祭にしていきたい」と話した。

（体育会本部＝葛西千瑛・文4）

## 緑地帯

### 卒論提出という季節

筆者が所属している文学部では、12月になると卒業論文の提出期限に向けて、4年次生の目の色が変わります。400字換算で50枚以上、ほとんどの人がこれまで書いたこともない分量を書くわけです。みなさん苦しみます。

しかし文章を書くことは不思議なもので、ある時から急にエンジンがかかり、50枚というハードルをあっという間に越えます。卒論を無事に提出した学生の感想の多くは「書きすぎた」です。

卒論を提出した人たちは、決まって「内容がない」とか「書きたいことが書けなかった」などと自分の卒業論文を評価します。でも、それは当たり前です。そんな簡単に研究成果が出るならば苦労はしません。こっちは何十年も苦しんでいるのです。むしろ、取り組んだ研究の難しさがわかったことを、喜ぶべきではないかと思うのです。研究への取り組みがなければ、そうした感覚を味わうことさえできません。自身の課題が見えることに学問の面白さがあるのではないでしょうか。

教員ができることは、せいぜい学生が納得いくものを書けるようアドバイスをすることくらいです。その過程でいろいろな話をし、少しだけ学生との距離が縮まったようにも感じます（勝手な思い込みかも知れませんが）。しかし、そう思った時にはみなさん卒業していくわけですから、そこには一抹の寂しさがあります。せめて卒業後、いつかみなさんがあの卒論提出の時期を懐かしく思う日が来ればと願っています。

（学生部）

## 「食の大切さ」を内科校医が講演

### 保健室健康講座

保健室健康講座「超・基本のダイエット術～そのコンビニ弁当は大丈夫？～」が12月15日に神田キャンパスで学生、職員ら15人が参加して行われた。同講座は2012年度から健康支援活動の一環として開催されている。

講師の塚田弥生氏（本学内科校医、日本医科大学附属病院・循環器内科医）は、正しい食生活の基礎知識、外食の応用、ちまたで流行しているダイエット法について語り、「自分自身をよく知ることが大切。理想体重を認識し、適正なエネルギー摂取量と運動、摂取量の記録などが大事です」と呼びかけた＝写真。

また、脂肪の生成の特徴や筋肉合成のコツ、肥満からくる脳梗塞などの病気のリスクについて語り、栄養学に基づくレシピ例を紹介した。

商学部4年次の男子は「今までの自分の栄養知識が間違っていたことがわかった」と話した。

## キャンパス情報

〈学生相談室・学生部共催ワークショップ〉

**コミュニケーションを学ぼう―対人関係理解のためのプログラム―**

▽日時＝1月29日（木）、30日（金）10時30分～16時30分▽場所＝サテライトキャンパス▽募集人数＝30人（先着順）▽参加費＝600円▽講師＝宿谷仁美氏（関西福祉科学大学）

※申し込みは1月20日（火）まで。2日間で一つのプログラムとなりますので、全日程に参加してください。

申込専用アドレス　workshop@acc.senshu-u.ac.jp